

メンバー（敬称略） ファシリテーター：島田（法政大） 記録係：小林（東大）  
青木（三丁目）・松原（三丁目）・春田夫人（三丁目）・西条（四丁目）・高根（四丁目）・前田（東大）

- ・できることからやっていく（春田）
- ・中長期の取り組みも必要（青木）

## 課題

- ・F街区G街区の問題（京王さんと協力して）
- ・今ある資源の活用
- ・資源の利用のマネージャーみたいな人が必要では？

長期の取り組み

土地の活用

駅前に集える場所が欲しい。音楽堂？NASのプールが使われてない。お金をかけずにあるものを活性化（高根）

**NASプール**は水処理の更新をしたので、是非使いたい（中村）

NASが移転したから使われていない。誰かが使ってくると、スポーツ施設のうち使えるのはプールのみ  
**テナント料がたかい？**建物が使えるなら使いたいが、、、（松原）

京王のジム→NAS

**NASの駐車場**は今でも使われている。ここと立体地駐車場は駅近で活性化するのが良い。

契約で文化公共施設しか立てれない（F街区）

京王ストアの横の同じように建てられる施設が限られている（G街区）（青木）

居場所

## 学生の居場所・住民の居場所

学生が多いのに通過点になっている。若者が利用できるお店がない。廃業してしまう。

ファストフード・食料品を扱うお店・本屋さんなど、、、

本屋パン屋は北野と高尾の駅にあるのに、、、めじろ台の駅前の賃貸料が高いと聞いたことがある。（西条）

学生はとにかくお金がない。

公開空地など、お金をかけずにたむろできる場所があれば良い。

お金をかけずに飲める場所（前田）

**ゴミの問題**（前田）

緑豊かに

バーミヤンの**大きい地下室**を利用したい（春田）

バーミヤンの**横の屋根のある場所**を活用したい（春田）

憲章にもあるように緑豊かな駅前に、**駅前の花壇**をリニューアルしたい

ベンチや噴水（理想ですが、、、）などをおきたい（春田）

日差しを遮る街路樹などあれば良い。（バス待ちの時暑い）

調布では大きな植木鉢の方法もある。（松原）

すぐできること

# [1]-2 駅前活性化②班

15:15~ 全体発表

2020年7月19日

メンバー：金剛さん、繁在家さん、内藤さん、竹野さん、片畑さん、青木さん、高鍋さん、今田

今日の目標：今後どんな活動をしたいか

## 緑・景観

駅前広場の景観  
(花壇など)  
(内藤)

駅前に限らず  
緑を充実させ  
たい (青木)

めじろ台のコ  
ロナ下でも居  
住環境がいい  
ことをいかし  
たい (内藤)

緑化活動は  
持続可能なもの  
にしないと、活  
動が継続しない  
(内藤)

住宅地の中は緑が多いが、駅前  
の空間に対しては不満が多い  
→駅前空間の陳腐化  
新しい魅力が必要 (内藤)

## 駅前の空間

ウッドデッキ、  
人が座れる場所

駅ロータリーに年間  
を通してイベント開  
催できる場所が人が  
集まる (交番の向か  
いが安全) (金剛)

ロールモデルとなる事例  
から議論する

武蔵境駅・  
武蔵小金井  
(竹野)

多摩センター  
(竹野)

ベンチ一つ置くのにも許可  
をとるなど大変 (内藤)

## 商店街・経済活性化

- ・ニーズと現状の相違
- ・区分所有の問題

駅前広場を囲む  
店舗の構成  
(内藤)

若い人も入れるよ  
うなカフェが欲し  
い (内藤)

現状めじろ台内に  
お金を落とせる環  
境がないが潜在的  
ニーズはある  
(繁在家)

経済を活性化する必要性  
商店街で競争が生まれる  
必要がある (繁在家)

小規模店舗の可能性がコロナの  
影響で高まっている (竹野)

駅前ウッドデッキ等の整備が  
店舗利益の向上に (金剛)

利用されていない駅前店舗  
を活用して欲しい (内藤)

## 交流の場づくり

学生との関わり 空き店舗活用

アルバイト・ボランティアを通して  
地域に愛知恵が生まれる  
(学部としても地域交流しやすく、  
活用したい) (片畑)

ふらっと立ち  
寄れるコミュ  
ニティスペー  
ス (勉強な  
ど) (片畑)

若者も楽しめる街  
大学生が学校に通う時期に学生が参  
加できるイベントを (片畑)

コミュニティの  
中心になる会館  
のリニューアル  
文化活動、親  
子・高齢者の居  
場所 (青木)

めじろ台駅を利用する学生が多いが、  
通過地点になってしまっている

多世代交流の場  
としての会館

## [1]-3 駅前活性化③班

### 駅前活性化の具体的なアクション

有岡さん 多様性のあるコミュニケーション、は駅前で実践できる

駅前に多様性が集まるような文化施設・セミナールームなどの整備

シンボルとなるような、**駅番号KO50からはじまるネーミング**

**漸進的に駅前のプラザ、新たなハード的な整備は難しい？**

**その間のめじろ台のブランディング・シンボル**

鈴木さん **生活に必要なお店**がある事が大事

魅力ある施設・集会できる場づくり

**駅周辺の保育園・幼稚園があったらいい通勤等とも絡めて**

佐藤浩さん セミナーにしても、コンテンツが大事

**消極的な層、色んな年代の人を呼び込むプログラム・中身**

**まずソフト面**

佐藤正一さん

藤井さん 駅前一画の再開発は時間がかかる

まず箱がないと始まらない

駅前でお茶できない、タリーズ呼ぶにも場所がないのでは

**商店街の印象が今の所よくない。業者に積極的に打診**

法政大学生などにアプローチしたい

柳原さん **めじろ台まちづくり緑化チーム。変化が楽しめる緑化**

シンボルツリーなど

**成功事例から学びたい**

東郷さん **50年前の開発の歴史から課題を抽出できるのでは**

デベロッパーを巻き込むには

**箱は意外とあるのではないかな...？**

日野

**駅前、の概念・範囲を拡張するための工夫ができないか**

駅前からできるだけ遠くまで来てもらうための工夫

有岡さん

**地域内の商店や人も巻き込んだアクション**  
**今空いてる施設を使おう！何ができるか**

鈴木さん

**緑を増やすことは比較的簡単に実践可能**  
**短・中・長期でできることがある**

中川さん

**ハードのみならず、駅前活性化の手法は多様**

東郷さん

**駅近に住宅地があることを活かすような機能**

**長期（新しいハード整備・駅前の面的活用）**  
**と**  
**短期（緑化/空き店舗活用/ソフト面の整備）**  
**を分けて漸進的に変えていこう！**

# [4]-1 空き家・空き地①班

【空き家・空き地①班】議事録 2020.7.19.

加藤（永生会）  
 長澤（2丁目）  
 丸山（2丁目）  
 春田（3丁目）  
 東（安心ねっと）  
 谷岡、瀬戸口（すずのなる木）  
 大西（SSトラスト）  
 高橋（コミュニティネットワーク）（敬称略）  
 ファシリテーター：大月先生 記録：西山

## ① まちづくり憲章案への感想

長澤  
 これからどのように動いていくかが大事

春田  
 次の世代に引き継いでいく意識

東  
 今後憲章をもとにまとまっていければ

谷岡  
 実現を頑張りたい

大西  
 キーワード等盛りだくさん  
 これからの展開が楽しみ

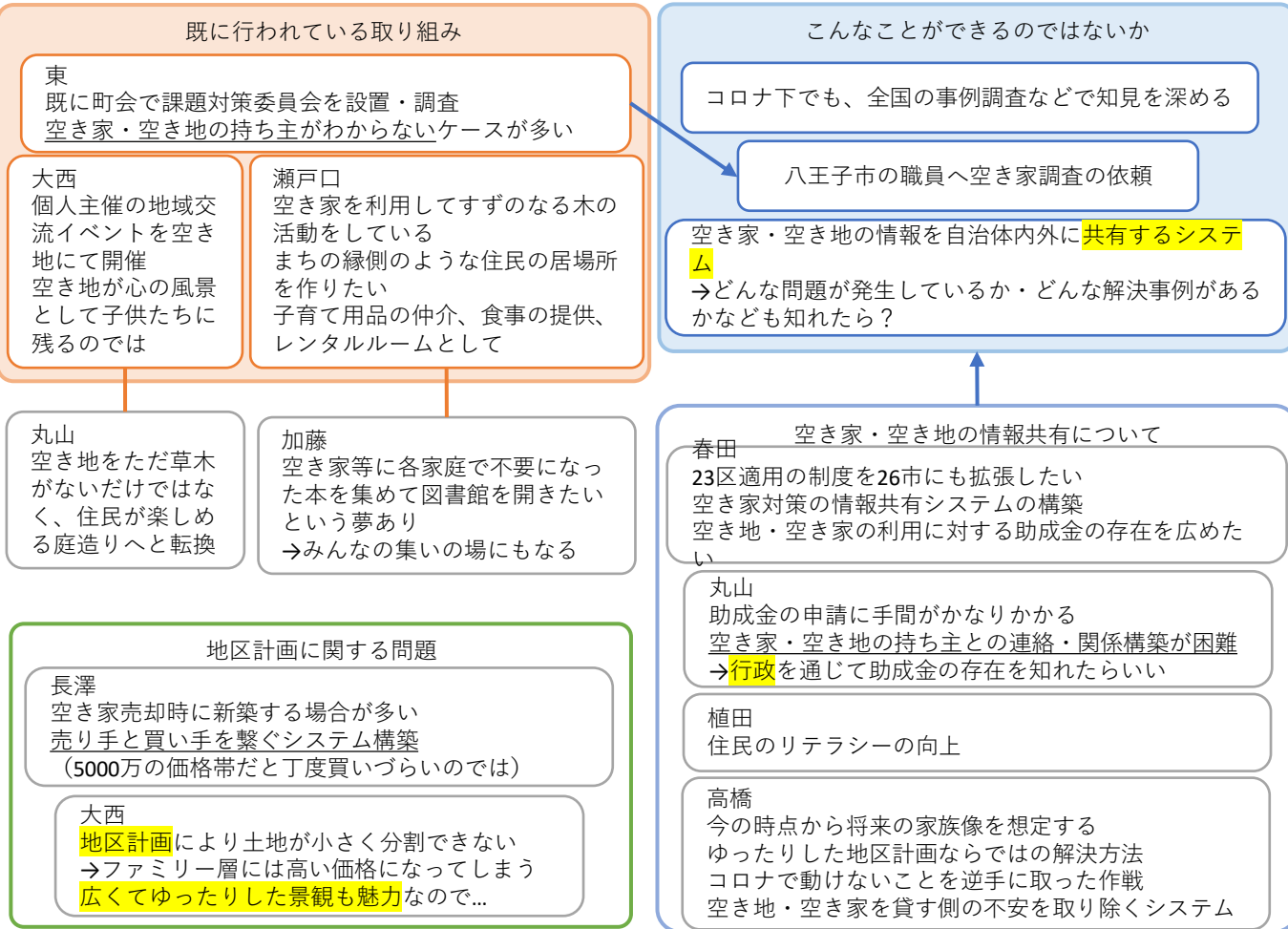
高橋  
 自分のやってきたことと真逆なので今後どのように展開していくか楽しみ

丸山  
 骨格がしっかりしていてよい

植田  
 弱者にやさしい→みんなで共生できる

## ② 憲章をもとにこれからどうするか

今後、空き地・空き家が徐々に増加していくと予測される将来をふまえて



## [4]-2 空き家・空き地②班

### 空き家・空き地② 議事資料

#### 参加者

ファシリテーター：深井様

町内会：大久保様

エスエストラスト：辻下様

町内会：田様（3丁目）

松本様（チーム街づくり）

町内会：斧林様（4丁目）

（不在）

渡邊様（不在？）

長サワ様

松本様

空き家は持ち手の問題

空き家所有者アンケート

（半分以上は返ってくる）

#### 逗子の事例

逗子市長に空き家対策を頼むと、

6~7割の空き家所有者から返って

きた

緩やかな見守り、しっかりした見守り

の両輪から信頼関係を形成

ふるさと納税で空き家管理を仕組み化

現在、街の中の活動の情報交換

大久保様（2丁目）

#### 空き家、空き地再調査

→どのくらい、どこにあるか、どうなっているのか、どう対応していくか（連絡、雑草）

→町会役員方と

松本様

郊外の良質一戸建ての高齢化

[1] 元気なうちに**空き家にならないための施策**

[2] **空き家になってしまったときのメンテナンス**

田様（3丁目）

・空き家・空き地への若い方からのアプローチの必要性

・建築基準が厳しいので、市へのアプローチが必要

空き家情勢の変化（大久保様）

連絡が取れる人もいるが、取れない人が多い

→自治会レベルでの限界はある

斧林様（4丁目）

1人になったときにどうするか

2人息子がめじろ台から離れている

テレワークの潮流→めじろ台の程よい距離

感が売りになる

辻下様

業者という立場だからこそ、自ら発信が困難

空き家管理事業などでのお手伝いできれば

売買・貸借の立場：コロナで販売が鈍化

売り物件はあるけど、買い手がない、制約

に至らない（3月以降の自粛？）

賃貸の需要はある：法政・拓大の学生の需要

は少ないが、ファミリー世代の需要はある

→直近では需要が戻りつつある傾向も



# [5]-1 医療・福祉①班

## めじろ台ワーキンググループ 医療・福祉①

下島、山川、山景(二丁目)、中村、矢崎(三丁目)、  
山本(永生会)、井上(IIOG)、張、櫻井(GLAFS)

### キーワード

#### つながり

##### 地縁

- ・外出する機会  
ex. 虫を見に行ったり(矢崎)
- ・防災訓練は今まで話したことが
- ・お祭りは昔畷畷ある(山景)人も  
外出の機会になりそう  
普段関わらない人と交流する  
機会になりそう(櫻井)

直接会って  
できること

#### 活動への参加

##### 食事

- ・一緒に食べる機会  
高齢者に限らず(矢崎)
- ・一緒に食べる  
食べることを見守る(山本)
- ・一緒に食べることを  
希望している高齢者(中  
村)

#### 楽しさ

##### 運動

- ・ノルディックウォーキング  
(下島)
- ・運動する機会(張)

##### 新しいアイディ

- ・団地に野菜の直売所<sup>ア</sup>を設ける  
(下島)
- ・ネットや電子機器の利用を  
若い世代に教えてもらう(下  
島)

##### インターネットの利用

- ・インターネット(ネットオークションなど)を利用して、  
コミュニケーションがとれる(山川)
- ・zoomの利用は顔を見て話すことができ、とても  
良かった(山景)

直接会わず  
にできるこ  
と

#### 共通事項

- ・集まる機会やサービスがあることを  
周知する(中村)
- ・直接会うことが最も良い(山景)

#### 課題

- ・コロナ禍でどのようにつながるか(張)
- ・どの程度のつながりが必要か(櫻井)
- ・高齢者以外の人たちとのつながり(櫻  
井)

地域のイベント（非日常）

**多世代交流・垣根のない繋がり**

めじろ台祭り（7月の2日間）約50回開催

1～4丁目町会実行委員会の方が運営  
町にとって大きな行事  
駅前ロータリーを開放 盆踊り  
子供達がひく神輿  
中学生の吹奏楽演奏  
老健施設・医療施設の訪問

さくら祭り（4月上旬）今年20回目の予定であった  
公園でむつみ会のコーラスやフラダンス等の  
活動発表の場

コロナで  
今年はで  
きていな  
い活動

各地区の高齢者へ居住状況・生活のお困りごとの声かけ（見守り活動定期巡回）

同好会活動  
ノルディックウォーク  
蛭狩り  
車椅子でも参加できる

**ユニバーサル**

スポーツフェスティバル  
多世代で交流し  
みんなで健康になれる催し

**健康**

見守り活動中心を担っているのは  
地域包括支援センター、民生委員  
課題：表に問題が出てきにくい

**地域でその人の支え方をコーディネート（みんなの目）**

**見守り**

できます登録/専門知識が  
いるものは研修

今後の新しい試み  
**オンラインサロン** すぐのなる木の活用  
ワンコインランチ  
知恵の共有 新たな活動を創出する

**伝統と強み（オンラインで繋がれる）  
を生かした新たな活動**

日常生活

ベンチの設置  
歩き出かけやすい街づくり



# [6]-1 若い世代・子育て世代

## 多世代の共存

若い世代を分類(子ども, 大学生, 子育て世代)して話し合いを行った

### 【子ども】

- 子どもによる人同士の繋がりを作るエネルギーは強い
- 子ども会によって子ども同士の繋がりができるが中高生になって子ども会を卒業すると繋がりが薄くなってしまうため, 大学生を含めた交流の場を設ける
- 地域の活動に参加する子どもは少ないが, 祭りに来る子どもは多い
- 子どもが自然に触れられるような環境を実現したい

### 【大学生】

- 放課後に友達と集まれる場が無いためカフェや自習室を作って欲しい
- アルバイトやボランティアの機会を提供する
- 空き家を使ってシェアハウス, アクティビティの提供

### 【子育て世代】

- 地域の行事で誰かが苦にならないような役割の配分をする
- 子育て世代の孤立が問題となっているため, 子育て世代が集える場が必要
- 家の相続の問題の解決方法が求められている
- 高水準の教育が受けられる環境, 共働き世代のために子どもを預けられるような仕組み, 駅前に買い物スポットを作るなど利便性の良い街づくりを行う

めじろ台の家を建てられる条件と共に今の環境を守っていききたい. コロナ後には疎な環境が求められる→めじろ台の環境が適している

今日の目標：

## めじろ台地区 まちづくり憲章 (案)

(多様性への配慮)

1.多様な人々が生き生きと安心・安全に暮らせる、弱者に優しいまちを実現します。

(多世代共存)

2.若者・子育て世代から高齢者まで、多世代で多様な人々が集い、互いに尊重し、共存でき、住み続けたいまちを目指します。

(コミュニケーション)

3.様々なライフスタイルやライフステージを持つ人々に合わせた、新しいネットワーク環境づくりを行ない、気軽にいつでもどこでも集い、参加し、コミュニケーションができる、ふれあいのまちを目指します。

(自然)

4.高尾山を背景に、緑多い美しいまちなみの環境を皆で守り、歩きやすく、住みたくなるような、人に優しいまちづくりに努めます。

(文化)

5.音楽・芸術・カルチャー・生涯学習・社会奉仕といった文化性・社会性に豊んだまちを実現し、一人ひとりの個性を生かし、生き生きと過ごせるまちをめざします。

(歴史と未来)

6.これまでに培われてきた住民の知恵と努力を継承しつつ、変化する社会に柔軟対応しながら、将来に希望がもてるまちの未来を描いていきます。

(魅力の創造)

7.多様な人々を惹きつけ続ける、魅力あるめじろ台をみんなで作ります。

## [5]-2 医療・福祉②班

細萱さん (IOG ファシリテーター)  
豊森さん (1丁目町会)  
小林さん (4丁目町会)  
安井さん (3丁目町会)  
梅本さん (4丁目町会)  
大谷さん・小泉さん (バードハウス)  
粉(へぎ)さん (永生会・PT)  
小川さん (GLAFS)  
田中 (GLAFS・MW 書記)

憲章に対して  
小林さん  
多様性への配慮  
弱者という言葉に引っかかり  
誰にでもという表現がよい

今後の活動に向けて 幅広く  
粉(へぎ)さん  
・同じ世代の集まりや同じ境遇の方が集合することが多い→垣根のない繋がり  
健康面  
・ユニバーサルスポーツ・ボランティア活動・オンラインサロン  
バードハウス  
・赤ちゃんからお年寄りまで その人一人を、そして家族ぐるみでの支援を  
みんなの目で行える (公的な支援の隙間を埋める)  
・すずのなる木  
「できます」登録/  
専門知識が必要なことには研修を設ける (病院の付き添い)  
地域の中で支え方をコーディネートできる  
美容院・ペットの世話等介護保険でできない生活支援  
小林さん  
・塀に腰掛ける人を見かけた→ベンチ設置 (walkability)  
梅本さん  
・ベンチが各所にあると町の中を歩きやすい  
小川さん  
・多世代交流の場として 祭りは?  
豊森さん  
4丁目から公園に向かうまでにベンチの設置  
各地区の高齢者へ居住状況・生活のお困りごとの声かけ  
(見守り活動定期巡回)・・・コロナでできず  
田中  
祭りの詳細、スポーツフェスティバルはあるのか

# [6]-1 若い世代・子育て世代

憲章のキーワード：若者から高齢者までが集い刺激し合う，若者にも住みやすい町，若い人が希望を持てる，若者が十年先に子どもに住んでほしいと思う，次世代につなぐ，子ども達の健全な育成環境，若い世代が住みやすい住宅づくり

## 多世代の共存

- 若い世代，子育て世代に会う機会があまりない．祭りの時に会うことがある．大学生はめじろ台を通過することが多い(アルバイト先が無い) にぎやかにする→にぎやかになることでお店が増える→アルバイト先が増える→大学生が増える
- 子育ては孤立しがち，どのように繋がりを作るかということが大事
- めじろ台の祭りについて：めじろ台が出来た頃は若い人が多かった．20,30年経った時から高齢化が進んだ．役柄をもらうことが苦になることがあり，それがきっかけで町を出る人がいる．祭りが好きな人だけではなくみんなが参加できるゆっくりした行事が必要．子どもたちから大人までのつながり，町会の繋がり，全体として何かを行う繋がりによって町の繋がりを作る．一方的に誰かが苦になることが無いようにする．

## [6]-1 若い世代・子育て世代

- 子育てをする中で地域資源として子育てをする人が集う場が少ない。若い世代が少ないと行事が大変なことがある。何かがあることによって子育て世代が集う。子育てがしやすい社会が持続可能な社会を作る。子どもと親が両方ともわくわくできるような環境を作る。子どもが人を繋ぐ力にはエネルギーがある。子育てを通じて人を繋ぐことができると良い。
- 公園等の場はあるが、もっと人が集うような工夫が必要(あまり知られていないことがある)
- 子育てを近場から見た視点：可能であればめじろ台に戻ってきてほしい。若い世代の数が少ない、学生にとって通過ポイント。将来の夢を描けるような町。若い世代が居着きやすいということが重要。
- 多摩川を渡ったところは高齢者が多い。お祭りについて、今いる人に対してどのようにアプローチをするかも重要だが外にいる人に対して働きかけるのかを考える必要がある。子育て世代がどのようにして戻ってくるかを考える。
- 定住人口を増やすことは難しい。空き家をつかってシェアハウス、アクティビティや大学との協力によって学生を呼ぶ。

## [6]-1 若い世代・子育て世代

- めじろ台の町の印象：環境に恵まれた住みよい町。相続等が発生したときにそのままその家に住むことが少ない。今住んでいる方の子どもの世代が戻ってくるケースが少ない。利便性と教育の観点からめじろ台をアピールすることが出来れば良い。駅前買い物スポット、飲食、共働き世代の為に駅前に託児所を作る、放課後児童を預けることができる施設を作る。子どもと高齢者が交流することができる施設を作ることができるのではないかと思う。
- 地域の小学校(場合によっては幼稚園)に対してIT教育や英語教育が受けられる環境を整えることで子育て世代へのアプローチになるのでは。
- 学生目線：若者とくくっても子育て世代なのか大学生なのかがある。対象に応じたアクティビティの提供。本来町はそこに住んでいる人のための場所。住むことのクオリティとは別に学生目線として考えることが有効なのでは。学生にとって集まれる場所があることが重要。勉強しようとしても21:00までしか大学にいれない。駅前に放課後に友達と交流できる場所があると良いのでは。(大学生の人数が多いのでポテンシャルが高い)
- 祭りに参加していたことからの視点：地域活動に子どもが参加することが少ない。反面お祭りになると参加する子どもが多い。小学生の頃は子供会での繋がりがあった。中高生になって子ども会を卒業すると若者同士でも中々会う機会がない。中高生が大学生と交流できるような機会を作ることによって繋がりを作ることができるのでは。ボランティアができるような環境があると良い(祭りの補助等大学生が参加できるようなもの)大学生にとっては自習室があると良いと思う。
- 高齢者の話し相手になるような活動